

# 地域活性化という「遊び」

34

京都市  
福知山市 「みわ・ダツシュ村」から

山本晋也

**限** 界集落が綺麗に紅葉する頃  
狩猟が解禁になります。

畀にかかったイノシシや鹿の解体は  
彼らがまだ小学生だった頃から手伝



■ 畀にかかった雌鹿。

ってもらっていますが

昨年から

止め刺し（屠殺）も手伝ってくれる  
ようになりました。



■ 目隠しをして手足を縛ります。

危険を冒して鹿の生け捕りと  
止め刺しに挑戦した子供たち

地元でも有名な

料理好きの子供たちだけあって  
肉質には非常にやかましく  
雄雌はもちろんのこと  
獲れる時期や年齢による個体差

さらには止め刺しや解体の手順で  
肉質に大きな違いが出ることを  
回を重ねるごとに実感したよう  
である日の朝

「次に獲物がかかったら生け捕りに  
して持ち帰ってから屠殺したい」  
と言いつきました。

**畀** にかかった鹿やイノシシは  
通常その場で

棒を使って殴ったり  
電気ショックなどで気絶させ  
心臓辺りをナイフで刺して  
放血しますが

## 筆者プロフィール

1968年、京都生まれ。美術大学を卒業して渡米後、京都で現代美術作家として活動。そのかわらオーガニックレストランを経営するも食材を種から作ってみたいとなり、京都市内で畑を始める。結婚して3人の子供を授かったころ、農業生産法人みわ・ダツシュ村の清水三雄と出会い、福知山市の限界集落に移住。廃屋を修繕しながら家族で自給自足を目指す。土と向き合ううち田畑と山や川、個人とコミュニティーの関係やその重要性に気がつき、田舎も都会もすべて含めた「大きな意味での自給」を強く意識するようになる。この考え方は、美術家時代にドイツの現代美術家ヨゼフボイスのすべての人が参加して創り上げる社会彫刻という概念に影響を受けた。現在みわ・ダツシュ村副村長。

その際やはり抵抗して暴れますので  
動物の体は泥まみれになりますし  
持ち帰ってから内臓の処理を  
することにようになりますので  
どうしても時間が

かかり過ぎてしまい  
その間に  
劣化してしまうこともあります。  
生け捕りにすると

まず動物の体をきれいに洗う。  
それから止め刺し、放血、内臓の処  
理と一気に行なえるため  
品質だけでなく衛生面から見ても  
大変メリットがあります。  
しかし

相手は犬や猫ではありませんから  
生け捕りにするのは  
容易ではありません。

**イ** ノシシの牙は  
包丁並に切れますし

雄鹿の角も大変危険で  
一つ間違えば大怪我。



自分たちのおやつにジャーキーを作りました。皮もなめして使うそうです。



包丁が切れないといい仕事が出来ないと毎日のように研いでいます。



綺麗に洗ってから止め刺し。

もつと間違えばこちらの命さえ危ぶまれます。しかし彼らが単に面白がって生け捕りをしようとしているのではない。こちらとしても簡単にNOと言うことはできません。いろいろ悩んでいるところにちょうどよいタイミングで一頭の雌鹿がかりました。雌なら角も牙もないし生け捕りの練習としては

うってつけ。ここは迷わず「よしやってみよう！」ということになりました。足にはワイヤーがかかっているので輪投げの要領で首にロープをかけ体全体の動きを封じた上でガムテープで目隠しをします。目隠しをすると動物はかなり大人しくなりますのでそこで体をひっくり返して前足後ろ足をロープで固定。

その際手を蹴られたようですがなんとか生け捕りに成功しました。今までの屠殺方法でも十分よくできていたので危険を冒して生け捕りまではしなくても思いましたが子供たちは納得せずさらなる高みを目指しているようです。

**考** えてみれば子供遊びというものには終わりがありません。次から次へと新しい挑戦が果てしなく続いていきます。大人はある程度の目標を達成してしまうともうこれくらいでいいやと現状に満足して力を抜いてしまうこともしばしばです。そして現状維持が目標となってしまう場合現実で100パーセント目標達成というのはいりませんからそこからは少しずつ後退することになります。さて次なる目標は恐ろしい牙を持つイノシシの生け捕り。子供たちの挑戦が続きます。僕も子供のように勇気を出してその遊びについていこうと思っています。